

令和5年度 上田市立川西小学校 自己評価（後期）

学校教育目標	めざす子どもの姿	総合評価					
自ら考え ともに高め合い かがやく子	①進んで体を鍛え、明るく、元気よく活動する子(体) ②自らねばり強く考え、課題を解決しようとする子(知) ③笑顔とあいさつを大切に、友だちと協力し合える子(情) ④自分で考え、進んで物事に取り組む子(意)	①朝や休み時間ごとに体育館や校庭で体を動かし遊ぶ児童が多い。特に3学期は冬の体力づくりとして、全校でマラソンや大縄とびに取り組んだ、カードへの記録を励みに継続して取り組んだ児童や、目標に向かってクラスで協力し合う姿が見られた。 ②ICTの利活用を進めた授業から、多くの児童が、表現方法の一つとしてICTに親しみ、素直に自ら取り組んだ。低学年もデジタルMIMや学習ソフトなども日常的に取り組めるようになってきた。 ③友だちのよさを進んで見つけ、お互いに助け合おうとする姿が見られる。気持ちのよい挨拶をさらに広げたい。5、6年では合同でピリオバトルを行い、互いの良さを認め合うよい機会となった。 ④児童アンケートからは進んで家庭学習をしていると答えた児童の割合が高くなっている。自主学習の取り組みも徐々に浸透し、様々な取り組みの成果が家庭と連携しながら、さらに深めていきたい。					
	今年度の重点目標	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
	① 「主体的・対話的で深い学び」の実現	グループで話し合ったり、発表し合ったりする場面を意図的に設定したことで、自分の考えを深めたり、新しい考え方に触れたりする場面を増やすことができた。		○			学ひの主体を児童に委ねるために、教師が単元構想の中で、サポートできる場面を明確にしなが授業づくりをしていく。自由進度学習の取り組みも試行できた。
	② 「探究的な学習」の充実	事象との出会いから生まれた気づきや疑問をもとに、自ら追究したり試行錯誤したりできる場面を、生活科や総合的な学習を中心に各教科で設定するよう心がけた。			○		より深まりのある学習となることを願い、地域に目を向け、地域とのかかわりを深める活動につながるよう教材研究や人材確保に努め、学校だより等でも呼びかけをしていく。
③ 通常学級における特別支援教育の充実	特別支援学級で実践している個別指導の具体例や児童にとってのわかりやすさを視点とした事例を職員間で共有し、一般化・日常化を図ろうとすることができた。		○			これまでの実践のよさを検証し、どの子にもわかりやすいか、取り組みやすいかを視点に振り返り、有効性のある支援を積極的に取り入れていきたい。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価方法	成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策	
		楽しい学校づくり	児童一人ひとりが、「できた」「わかった」「楽しい」「うれしい」と実感できる学校になっているか。	アイウエ	わかりやすく楽しい授業を目指し、日々の授業改善に取り組んでいる。また、児童にとっての安全・安心を考え、どの子にも居場所のある学校づくりに努め、職員間の連携を密にしている。		○			重点研究の3部会(自由進度学習部会/学級づくり・UD化部会/総合・生活科部会)で研究してきたことを基に後半は実践を重ね、今年度の重点①②③を視点に振り返りを行った。成果をもとにさらに授業改善を進めていきたい。	
教育活動	体力向上	運動への取り組み	体幹トレーニング、コーディネーション運動など、継続的に運動への取り組みができていますか。	アイウ	体育の授業では目標にむかって粘り強く取り組めた。休み時間には、多くの子が外で遊んでいる反面、体を動かさない子も見られる。熱中症の心配がある時期は、外遊びを推奨しにくかった。		○			体力づくりという視点から、3学期は大縄跳びやマラソンなど、友達同士や個人で楽しめる取り組みも紹介し、全校で取り組むことができた。	
		規則正しい生活リズムの構築	「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を意識した生活ができるよう、継続した指導を行っているか。	アイウ	アンケートの結果から、朝食をしっかり摂ってくる児童が多いことが分かった。学校だよりや保健だより等を通して「早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち」を呼びかけることで、家庭でのリズムも習慣化している。		○			児童が生活リズムを調えるよさを児童自身が実感できる場を設定したい。専門の方から話を聞いたり、視覚的にも理解できる情報提供をしたりするよう工夫していきたい。	
	学力向上	「主体的・対話的で深い学び」の実現	児童が学びの主(主人公)になっているか。	アイウ	その時間の学習課題を児童と一緒に設定していくよう心掛けている。活発なグループ学習や友達同士で学び合う姿も見られるようになってきた。教師主導にならないよう心がけているが、内容や時数との兼ね合いは来年度の課題としたい。		○			一人一人の個性や特性を捉えながら丁寧に対応し、もっと子どもたち発信、子どもたちメインの授業構想をしていきたい。自由進度学習の試行もさらに進めていく。	
		「探究的な学習」の充実	自由進度学習やICT機器の活用など、未来に生きて働く力を育む教育手法を取り入れているか。	アイウ	自己課題を持って、積極的に研修し、子どもたちに自分の学びを返せるよう努めている。成果を出すにはさらに実践が必要。教科を問わず、クロムブックを有効に活用できないかを模索している。			○		学習課題の設定や単元全体の流れなどを児童の気づきや疑問をもとに、一緒に話し合ったり決め出したりしながら、単元を展開していくようにする。	
	教情育操	居心地のよい学級づくり	地域に学ぶ学習や課題解決力を高める学習が実践されているか	アイウ	児童が自己肯定感を持ち、安心して生活できるための取り組みを進めているか。	アイウ		○			生活科・総合的な学習の時間を中心にして、子どもたちの発想を活かした活動に取り組んでいきたい。その際に、ICTも効果的に活用し解決の方法を探ったり、自分たちから地域へ発信できたりするように配慮していきたい。
	自主・自立を育てる	児童会・係活動	「自分たちの学校を自分たちでより良くする」という視点を大事にした活動を計画・実践しているか。	アイウエ	朝の会や帰りの会では、「ありがとう」の言葉をキーワードに、友だちや学級の様子などを発表する場を設定している。肯定的な評価をする児童が増えている。	アイウ		○			どの学級においても、友だちの「よさ」「やさしさ」「がんばり」を見つける活動を日常的に実施している。さらに具体的な姿を認め合えるよう工夫していきたい。
家庭学習の充実		「紡ぐ」や「自主学習の手引き」を活用した、計画的な家庭学習の習慣化が図られているか。	アイウエ	児童会主催の週間やイベントの他に、きょうだい学級での活動も日常的に行えるようになってきた。挨拶については、進んでやることでお互いが気持ちよくなるのが児童の中に広がってきている。	アイウエ		○			気もちのよい挨拶を交わし合えることを目標に継続して取り組んでいきたい。児童会祭りなどの全校行事の他にも、縦割りを意識した交流活動や外遊びなどをさらに充実させていきたい。清掃活動も「あとみよそわか」を合言葉に全校で取り組んだ。	
メディアとの関わり		メディアの活用を計画的に行うとともに、適切な関わり方について考え、生かしているか。	アイウエ	家庭学習の習慣化を図ると共に、自主学習の充実を推進することができた。具体例を紹介したり、実物を掲示したりすることにより、児童が自ら取り組めるよう配慮している。	アイウエ		○			自主学習weekにおける取組みが浸透し、児童が自分の発想で学習を進めることができるようになってきた。さらに自主学習の具体例を紹介し、児童の発想を幅を広げたり、より深まりのある探究活動となるようとなるよう支援していく。	
学校運営	連地連携	コミュニティスクールの充実	メディアの活用を計画的に行うとともに、適切な関わり方について考え、生かしているか。	アイウエ	学年だよりや学級だより等で児童の姿や頑張り等をお知らせしたり、定期的にホームページの更新を行い、学校の様子を発信したりすることができた。教科を問わず、クロムブックを道具の一つとして活用できるようになってきた。		○			さらにどの学年においても必要に応じて、メディアを適切に活用することができるよう活用の仕方を検討していきたい。家庭学習における活用の進めるため、持ち帰りの機会を増やしていきたい。	
	研修	UD化を視点とした授業力の向上	学校運営協議会やコーディネーターと連携し、地域やPTAとの協力・支援を図ることができたか。	アイエ	シャボン玉の皆さんによる定期的な読み聞かせは、児童も楽しみにしている。4年生では米作りの活動に多くの方に関わっていただきありがたかった。2回のPTA作業に参加された多くの皆さんのおかげで、校内環境が整った。		○			保護者、ボランティア、地域の方々が大変協力的と感じている。引き続き連携を深め、児童の成長の姿を見ていただけるよう努力していきたい。また、職員の研修としてこの地域に学び、授業づくりに活かしていけるよう研修を計画していきたい。	
	組織	情報の共有および全職員による指導	自己課題を改善するため、自己評価や児童からの評価を活かし、日々の授業改善を行っているか。	アイウ	日々の授業や一人一公開授業での見合いと振り返りを日常的に行い、ユニバーサルデザイン化を視点に授業改善を進めている。		○			個別の学び方や学習の進め方に柔軟に対応できるように、明確な単元構想と丁寧な教材研究を基本に授業計画を立てていきたい。	
			子どもたちの状況にかかわる情報をチームで共有し、同一歩調で対応できているか。	アイ	児童に関する情報共有は最優先事項として対応することを原則とし、児童の気になる姿が見られた時は、チームによる早期対応を心がけている。		○			これからも、家庭・地域との連携を密にしながら、全校児童の成長を全職員で支え、見守る体制を継続していきたい。また、地域の支援者との連携もさらに深めていきたい。	

○評価方法 ア:教師自身による評価 イ:学校長による評価 ウ:児童アンケート エ:保護者アンケート オ:学校運営協議会委員アンケート

○評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった